

02.Configをe2studioでビルド&書き込み

T-Kernel起動の為、Configのコンパイル手順について説明する。
ConfigにはT-Kernelの動作設定情報などが含まれておりT-Kernelが起動する時に参照する。

e2studioの起動

[T-Monitor\(ROM版\)をe2studioでビルド&デバッグ](#) 記事を参照。

Configのコンパイル

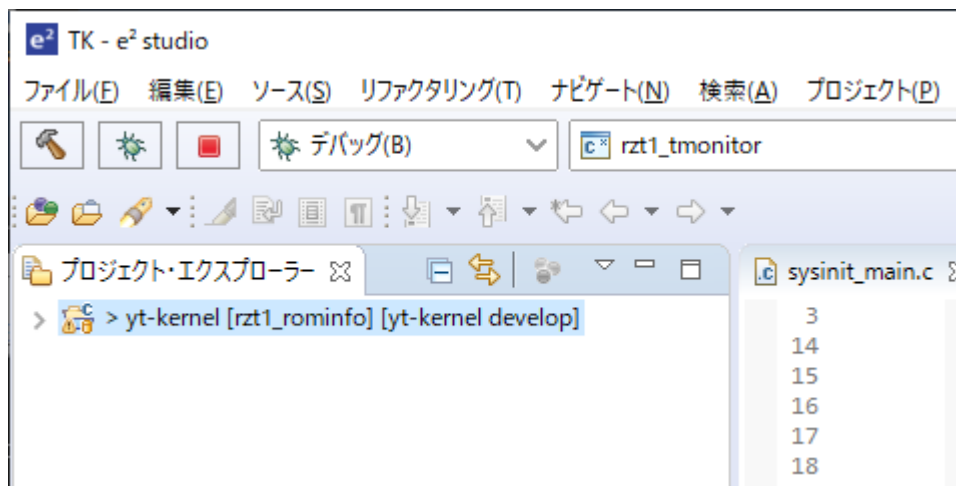
rtk_kernelリポジトリにはe2studioプロジェクト情報も含み、「ビルド構成」も定義済みであるので選択する。

(もし新しくビルド構成を定義する場合は、「[e2studioプロジェクトのセットアップ手順](#)」記事を参照)

1) ビルド構成をアクティブにする

画面左側のプロジェクト・エクスプローラからプロジェクト (rtk_kernel) を右クリック

ビルド構成>アクティブにする から「rzt1_rominfo」ビルドを選択。



2) ビルドの実行

画面左側のプロジェクト・エクスプローラで、プロジェクト (rtk_kernel) を右クリック。
「プロジェクトのビルド」を実行。

暫くすると右下コンソール画面に完了メッセージ表示（環境にもよるが数分位かかる）

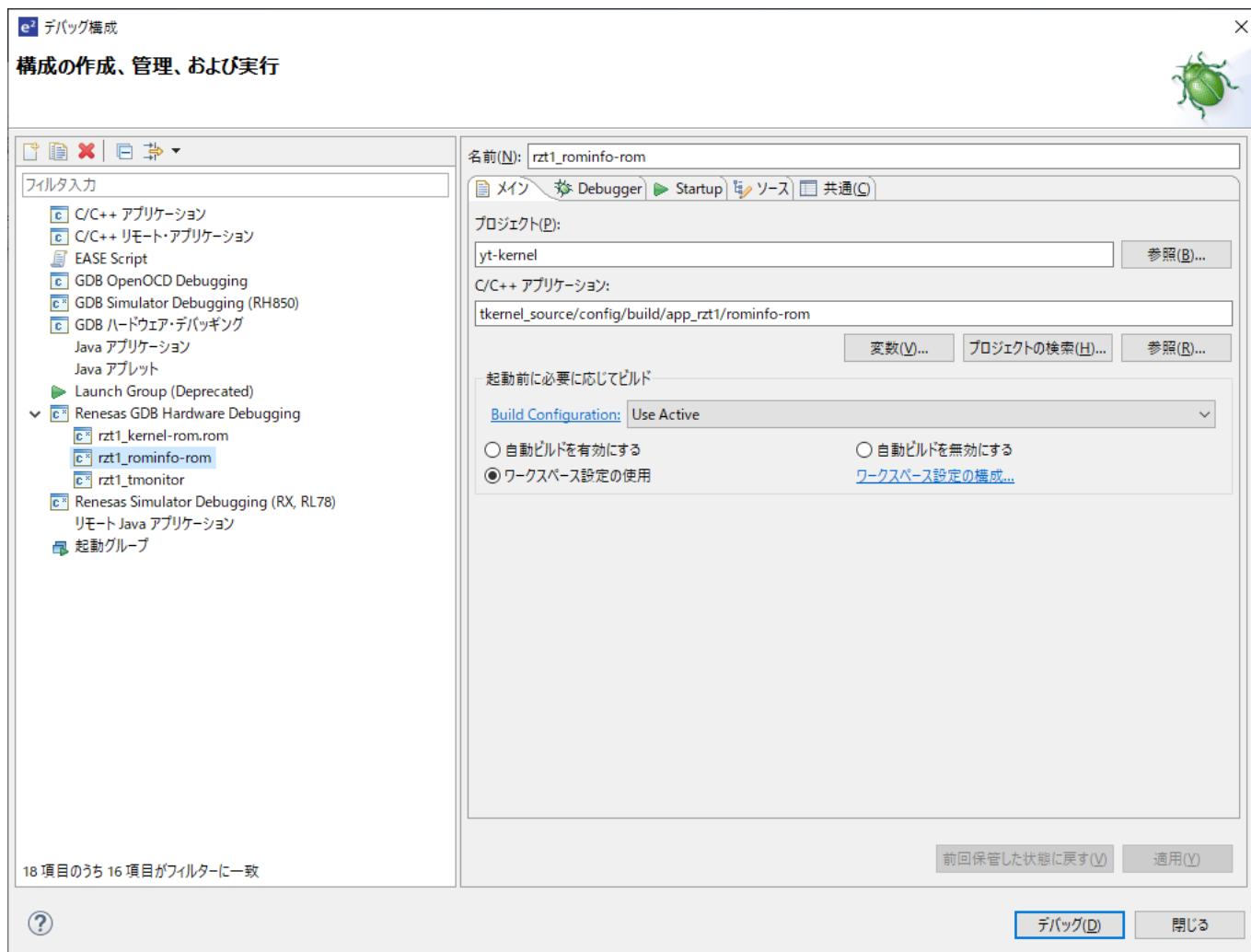
- 本コマンド実行で、ビルドディレクトリで「make」コマンドが実行されている。
- ビルドしたオブジェクトファイルを消すには「プロジェクトをクリーンにする」を実行。この場合は「make clean」コマンドが実行されている。

Config情報の書き込み

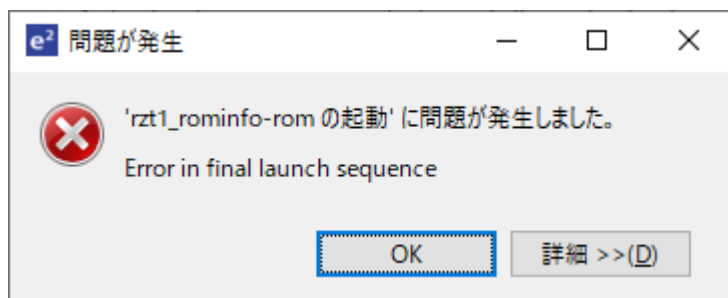
ビルド完了してバイナリーファイルの所にオブジェクトファイルが生成されたら、**ROM実行版**をJ-Link経由で基板に転送しフラッシュROMに書き込む。

rtk_kernelリポジトリには、「デバッグ構成」も定義済みであるので選択する。

画面左側のプロジェクト・エクスプローラ中の、バイナリオブジェクトファイル名を右クリック。
デバッグ > デバッグの構成で Renesas GDB Hardware Debugging の「rzt1_rominfo-rom」を選択し [デバッグ] ボタンを押すとJ-Link経由でプログラム転送されフラッシュROMに書き込まれる。



この時、実行ファイルでないで、下記エラー表示するが無視して [OK] する。



以上で、Config情報の書き込み完了。

補足

* ビルド実行時に「[ERROR] No toolchain set or toolchain not integrated.」と表示されるが、気にしなくてもよいみたい。

[rtk kernel](#)

From:

<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/> - 新石器Wiki

Permanent link:

https://www.yokoweb.net/dokuwiki/develop/rtk_kernel/rtk_kernel-rzt1/build/build-e2studio/config-e2studio-build?rev=1578375716

Last update: 2020/01/07 14:41

